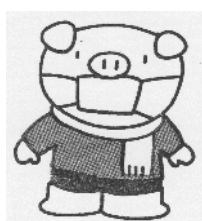


ひまわり



令和2年1月31日(金)

正しいことをする



以前、皆さんに紹介した、マイケル・サンデル（ハーバード大学教授）著「Justice：What the Right Thing to DO?」（日本題→これからの「正義」の話をしよう ―いまを生き延びるための哲学―）の第1章に次のような話があります。

2004年夏、メキシコ湾で発生したハリケーンにより大きな被害がでました。これに伴って、普段は一袋2ドルの氷が10ドルで売られたり、250ドルの家庭用発電機が2000ドルになるなど、ここぞとばかりの便乗値上げがありました。普通感覚では、このことは正しい行いではない、と判断するでしょう。しかし、経済学的な需要と供給の観点から、このことを是とする経済学者もいたようです。

マイケル・サンデル氏は「Justice」の中で、道徳的、哲学的にこの行いが正しいのかどうかを論じていました。

今週の月曜日、最寄り駅近くのコンビニや薬局では、普通どおりにマスクが販売されていました。ところが水曜日になると、これらのお店の棚からマスクが一切なくなってしまうしました。新型肺炎の報道を受け、一気に売ってしまったのでしょうか。

家に帰り、ネットの販売サイトを開いてみました。すると、かなりの品薄になっているようでした。価格は高騰し、中には定価の3倍近くの価格で販売されているものもありました。このことは、先に述べたハリケーン後の便乗値上げの話と同じです。

皆さんは、このことに対してどのように思いますか。需要が増え品薄になったのだから、経済的な原則として値上がりは仕方がないと納得できるでしょうか。私は、多くの人が新型肺炎に不安を感じている中では、需要・供給・価格の原則をあてはめるべきではないと思っています。また、このような行いをする業者（個人かもしれない）に対して、憤りを通り越して人としての哀れさを感じます。このことを通して、正しい行いとは何かを考えてみましょう。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

【東住吉中学校】で検索



QR code

東住吉中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j742691>